

日本PCA教育振興会創立20周年記念

第12回大人の教育シンポジウム「夢と希望を語ろう」

学びの海 プラットフォーム

「夢をかなえる海」～森は海の恋人～



シンポジウムが行われた宮崎カーフェリー「こうべエクスプレス」

「夢と希望を語ろう」第12回大人の教育シンポジウムが2019年10月27日宮崎港に停泊するカーフェリー「こうべエクスプレス」で開かれた。テーマは「学びの海」プラットフォーム「夢をかなえる海」～森は海の恋人～。

日本PCA教育振興会創立20周年の記念行事で、南国宮崎ならではのフラダンスの歓迎行事もあって、わきあいあいの雰囲気の中で行われた。(詳細は2～3ページの見聞き特集)

夢と希望

第5号

2020年
2月1日

日本PCA教育振興会

Japan Parents and
Citizens Association
for Education

発行人 鈴木 仁

〒156-0056
東京都世田谷区八幡山
3-6-2

☎03-5317-4131

FAX03-3304-2188

日本PCA教育振興会 会長

鈴木 仁



新年おめでとうございます。未来を担う子どもたちの健全育成を願い2000年に設立した日本PCAも、2019年めでたく創立20周年を迎えることができました。

『大人の教育シンポジウム』も今回で12回目となり、創立20周年記念と銘打ち、「海」をテーマに宮崎港のカーフェリーの船内で開催いたしました。

当日はPCA顧問の元文部大臣・島村宜伸先生と元文部科学大臣・馳浩先生から祝電を頂戴

大海原を背景に海洋教育の一環として開催

し、来賓としてお招きした萩生田光一・文部科学大臣および日隈俊郎・宮崎県教育委員会教育長からは祝辞をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

パネルディスカッションでは、コーディネーターの元文科省大臣官房審議官・寺脇研氏の進行により、ゲストの洋画家・絹谷幸二氏、日本船主協会理事・小野芳清氏、どんぐり千年の森づくり会長・平原洋和氏のお三方が、海洋資源や自然環境保護などについて議論されました。

これにより、子どもたちが海に関心を持ち、自然からの恩恵について考える機会になったとすれば幸いです。

今後とも皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

PCAとは？

PCAの「C」はシティズン（市民）です。PTAは、子どもが学校を卒業すると、親たちも学校教育の現場から離れざるを得ませんでした。それを子育ての終わった人、子どもを持たない地域の人たち、教育に関心のある

すべての人に参加していただき、子どもたちの教育を考え、実践しよう。それが日本PCA教育振興会の考え方です。

大人たちが積極的に地域の子どものための教育に参画する。そのPCA活動は、街おこしのきっかけにもなるのではないかと期待されています。

学校支援者補償制度のお問い合わせは☎0120-580-278(フリーダイヤル)へ

日本PCA教育振興会は、「地域の大人全体で青少年の健全育成を」と呼びかけ、この補償制度を2003(平成15)年から実施しております。詳細は<http://j-pca.net/hosyou/00.html>へ。

学びの海 プラットフォーム

「夢をかなえる海」 ～森は海の恋人～



日本PCA教育振興会創立 20周年記念
第12回大人の教育シンポジウム
「夢と希望を語ろう」

寺脇 船の中でこんな会合は、生まれて初めてです。宮崎県は日向灘に面して海が身近にあります。まず海と私たちのつながりについて日本船主協会の小野理事長にお話をお願いしたいと思います。

小野 日本では、輸出と輸入を合わせ1年間で9億トンの荷物が出入り入ったりしています。輸出が1億6千万ト、輸入が7億6千万ト。日本は海に囲まれていますので、船が飛行機です。その割合は船99・6%、飛行機0・4%、ほぼ100%船なのです。

船の輸送がなくなったらどうなるか。コンビニエンスストアの商品棚はガラーンとなつてしまいます。

外航海運は「インフラの中のインフラだ」といわれます。イ

●パネリスト
小野 芳清 (日本船主協会理事長)
平原 洋和 (どんぐり千年の森をつくる会会長)
絹谷 幸二 (洋画家 文化功労者)
●コーディネーター
寺脇 研 (元文部科学省審議官 星槎大学大学院教育学研究科特任教授) (敬称略)

ンフラ産業の代表格は電力、発電業ですが、電気を起こす石油、石炭、LNGを運ぶのがこの外航海運。つまりインフラ産業のさらなるインフラなのです。

学習指導要領が改訂され、来年4月から新学習指導要領に基づいた教育が小学校で始まりです。5年生の社会科の教科書で海運が取り上げられます。海運がなければ日本人の生活は成り立たないことを分かって欲しいと願っています。

海運のことを知らない先生方を全面的にサポートします。教材づくりや子どもたちに海運の現場を見せる、造船やコンテナヤードの見学、船にも乗ってもらう。そういうプログラムを学校で組む場合には、日本船主協会がコストも含めて全面的にサポートさせていただきます。必要があれば何なりとお問い合わせ、ご依頼いただければと思います。

寺脇 「夢をかなえる海」については、今の話を中心だと思えます。次に「森は海の恋人」。海から一転して森の話をお願いしたいと思います。

平原 私たちの国は四方を海に囲まれています。私たちは海から魚や海藻、そのほかの食料をもらっています。そういう海の

豊かさは海だけではできません。川を遡って森にあるのです。「水の循環」。海から上がった水蒸気が雲になって、雨となり、森に降った雨が川から海に流れ込む。ちょうど血液が心臓から出てまた心臓に帰ってくるように、この地球上では水が循環しています。

私たちの「どんぐり千年の森をつくる会」は、1997(平成9)年から大淀川上流の山にどんぐりを植え、苗木の総数は16万本になります。植えた面積は65haに達しています。毎年3月の植樹会には500人からの人に参加していただき、山に這いつくばって1本1本丁寧に苗木を植えてまいりました。植樹会参加者は1万人を超えました。

【日時】令和元年 10月27日(日) 10:20 ~ 12:40
【会場】宮崎港に停泊中の宮崎カーフェリー「こうべエクスプレス」船内
【主催】日本PCA教育振興会
【後援】文部科学省/日本船主協会/日本海事新聞社/教育新聞社/教育家庭新聞社/宮崎県教育委員会/日本財団/アジア刑政財団本部支部「期成会」
【協賛】大塚製薬(株)/宮崎カーフェリー(株)
■記念式典 司会:島田益吉専務理事
会長挨拶/来賓挨拶▷文科大臣代理:同省地域学習推進課長補佐・下田力氏▷宮崎県教育長代理:教育次長・黒木健一氏/来賓紹介/祝電披露
■シンポジウム
■閉会式 閉会の挨拶 阿多祥一副会長

た。どんぐりという名前の木はありません。ナラ、カシ、クヌギの木など、どんぐりの実がなる木を総称してどんぐりと言っています。

寺脇 絹谷幸二先生は日本を代表する世界的な画家です。本日のプログラムを表紙にも富士山の絵を使わせていただいています。先生の作品には、神話の世界、古事記や日本書紀を素材にしたものがあり、宮崎県に何度も来られ、日本の歴史・文化に詳しい。

絹谷 画家の私がかここにいるのは場違いですが、例えばこの富士山の絵。赤富士(あかふじ)と言いますが、これは砂鉄に光

この砂鉄は雨で流れて野山を駆け下つて海に出る。それを植物性プランクトンが食べ、その植物性プランクトンを今度は動物性プランクトンが食べる。タコや鯛がなぜ赤いのか。山の鉄



左から寺脇研、絹谷幸二、小野芳清、平原洋和各氏。

分を食べているからなんです。ね。それを私たちが食べる。ですから、私たちの血液は山から来ていると言えます。

人間の骨は炭酸カルシウムですが、これも山にある石灰岩が水に溶けて海に入って、海老や小魚が、それを私たちが食べて……。

風景と人物は別々じゃないと思います。海をきれいにすると、人間をきれいにするために自然はきれいであらなければならぬ。という方が正しいと思います。

ふるさとと自然、海と自然、山と自然はそのまま私たちを作っている。海や山を美しくしなければいけない。そういう美しいものを描きたいというのが絵描きの仕事です。

寺脇 絹谷先生の絵を見ていると、心が明るくなりますよね。ああ、色ついでいいな、素晴らしいな、美しいなど。

平原 「森は海の恋人」。うまい表現だと思います。大淀川流域にある森は広葉樹が地中深く根を張ります。そこから吸い上げたミネラルを葉に溜めます。その葉っぱが地面に落ちて、そのミネラルが大淀川に流れ込む。

このミネラルが養分となって宮崎の海、日向灘の生物を育てて



いるのです。森は海の生物の命の源なんです。

私たちが食べているお米。水田は連作障害を起こしません。これは山から川を通ってミネラルが常に補給されているからです。水田にとっても山は恋人なんです。

逆に「海は森の恋人」でもあります。海から蒸発した水蒸気が雲となって、森に雨を降らせる。これが海からの贈り物です。真水です。陸地の動物や植物は、真水がなければ生きてはいけません。地球上の98%は海水で、真水はたった2%しかない。非常に貴重な水です。海からの贈り物が届かなかつたら森は枯れ、陸地の動植物は死んでしまう。ですから、森と海は相思相愛だと思えます。

「景観十年、風景百年、風土千年」といわれます。人をつくる

る風土は1000年の歳月を要する。「どんぐり千年の森をつくる会」はここを出発点にしました。

寺脇 海運の世界でも、地球に優しくということが出てきますね。

小野 海運が関係する環境問題というのは大きく2つに分けられます。船が海上を航行することによって海水そのものに影響を及ぼす問題と、もう一つはエンジンに回らず、燃料を焚く大気汚染の問題です。

世界の海運業界が出す二酸化炭素は、ドイツ1か国が出す二酸化炭素の量とほぼ同じです。世界の二酸化炭素排出量の約2%。それを2050年までに半分にしよう、今世紀末までにはゼロにしようという取り組みを現在行っています。

寺脇 今世紀末という私なんか絶対には生きていませんが、今年生まれた子どもが80歳まで生きればもう22世紀ですからね。今の小・中学生、高校生も22世紀まで生きる。

このPCA教育振興会の最大の目的は、子どもたちが健やかに21世紀を生き抜いて22世紀まで、次の代の子どもたちを育てていく。そのバックグラウンドに海と森があるということだと

思っています。絹谷 文部科学省後援、日本芸術院と文化庁の「子供夢・アート・アカデミー」で、絵の出席授業をやっております。

私は、もうぐちゃぐちゃな絵、めっちゃめっちゃ描いたような絵をとって、「おお、これはピカソだ、これが好きだ」と言う。そうすると、90%以上の子どもがバーツと喜びます。私が帰るときには、体を触られて、握手され、採みくちやにされます。

絵の世界は、「1+1=2」というみんなと同じ答えを出したら間違っている世界なんです。美術は、国語などの先生が掛け持ちで教えている学校が大半で、美術大学を卒業した専門の先生は非常に少ない。だから文科省にお願いしたいのは、常識外れの絵描きを各学校に置いてもらえれば、と思います。

寺脇 最後に一つだけ。「子どもたちをよろしく」という映画を私が作りました(監督・脚本 隅田靖)。いじめ、児童虐待がテーマです。子どもがいきなりいじめをするわけじゃないです。その環境が悪いからいじめというものが起こってくる。そのことを皆さんに訴えたいと思っています。長時間ありがとうございました。

日本PCA教育振興会役員

顧問	与謝野 馨 (元文部大臣)	田口 豊實 (青森)	小林 庄市 (福井)
	島村 宜伸 (元文部大臣)	木下 徹 (東京)	丸 洋栄 (東京)
	明石 要一 (千葉敬愛短期大学 学長)	松下 文芳 (北海道)	山田 誠香 (大阪)
相談役	片桐 良雄 (長野) 三浦 規雄 (千葉)	田中 康司 (岐阜)	島袋 光尋 (沖縄)
	橋本 量太郎 (千葉) 薄田 泰元 (新潟)	川端 政広 (福岡)	長谷部 衛平 (千葉)
	岡部 観栄 (大分)	三角 慎二 (和歌山)	津覇 達也 (沖縄)
会長	鈴木 仁 (栃木)	荒川 律 (栃木)	
副会長	田久保 健美 (千葉) 阿多 祥一 (宮崎)	東 洋子 (東京)	
専務理事	島田 益吉 (東京)		
常務理事	佐保 博文 (大阪) 狐崎 麻男 (千葉)		

事務局 東京都世田谷区八幡山 3-6-2
 〒156-0056 03-5317-4131 FAX03-3304-2188

萩生田光一 文部科学大臣の祝辞



日本PCA教育振興会の創立20周年並びに第12回大人の教育シンポジウムの開催を心からお祝い申し上げます。

人口減少や少子高齢化、急速な技術革新やグローバル化の進展など、社会が大きく変化する中では国民一人一人が生涯にわたって必要な知識を身につけ、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成していくことが重要です。

そのためには家庭、地域、学校が連携・協働し、社会全体で教育を支えていく必要があります。日本PCA教育振興会の皆様には、日頃から地域社会全体で子どもたちを見守り育てるためのさまざまな活動に取り組んでおられますことにご敬意を表します。今後とも豊かな経験を生かし、子どもたちが安心・安全に生活し、将来に希望を持って成長していける社会の実現に向けて引き続きご協力くださるようお願い申し上げます。

本シンポジウムのご成功と日本PCA教育振興会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

日隈俊郎 宮崎県教育長の祝辞 (要旨)



日本PCA教育振興会が創立20周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げます。

基本計画を策定いたしました。地域や家庭、学校など多様な主体の連携・協働という横の連携と子どもから大人までの学びのつながりという縦の接続を基本姿勢に、県民総ぐるみで次代を担う人材の育成に取り組んでいるところで

宮崎県は太陽と緑の国といわれ、素晴らしい自然環境に囲まれており、特に豊かな森林と美しい海は県民の暮らしに深く結びつき、大きな恩恵を与えてくれます。

本県では「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎の人づくり」をスローガンに、令和元年度からの新しい教育振興

地球規模で環境問題について考え行動していくことが喫緊の課題となつていま、本シンポジウムがここ宮崎の地で開催いただきましたことを大変喜ばしく思っています。宮崎県の教育の推進に引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

大人の教育シンポジウム

「夢と希望を語るう」の歩み

●第1回 (2002年) 21世紀の児童生徒を育てるための大人の役割 / 東京・虎ノ門

●第2回 (2003年) まことの対話を取り戻そう / 札幌市

●第3回 (2006年) 子どもたちのための安全な街づくり / 東京・内幸町

●第4回 (2007年) IT時代の教育とつけを考える / 船橋市

●第5回 (2008年) 食育と子育てについて考える / 都城市

●第6回 (2009年) 地域の力を生かした教育を考える / 東大阪市

●第7回 (2010年) 地域にやさしい暮らしを考える / 那須高原

●第8回 (2011年) 子どもをどうほめるか、どう叱ればよいか / 那覇市

●第9回 (2015年) 地域で子どもが学ぶためのPCAの役割 / 東京・代々木

●第10回 (2015年) 地域で子どもを育てよう / 東京・代々木

●第11回 (2017年) 色彩は心を豊かにする / 奈良市

●第12回 (2019年) 「夢をかなえる海」 / 森は海の恋人 / 宮崎市